

〔平成十一年の自治会報より再掲〕 パイパス測道ゴミ拾いで 学ばせて貰った事

筆頭副会長 高橋 明夫

亀田パイパス姥ヶ山地内測道のビンや缶などの投げ捨てが目にも余り、気持ちの良い環境に戻すにはどんな方法があるか、と考えさせられる朝も度々ありました。自分でやろうか・有志にもお声掛けしようかまた諏訪社や地藏堂の境内など高齢の方々がボランティアに汗を流している方々、この方々に声を掛けさせて頂くことが、自問自答をしておりました。

しかし考えて見れば「自分達の住む地域は、自分達が真っ先に守らなければならぬ」「こんな当然過ぎる答えを出した頃、自治会の役員会があり、会議の終了間際にゴミ拾いを提案させて頂きました。それを聞いて頂いた方の中から、「前に一人で拾った事がある」や「以前から気になっていた」などと必要さを理解している発言が殆どで、これを実施する事にして環境衛生部を先頭に役員の中でボランティア参加して頂ける人達の集まりを十月四日早朝から待つと言う事になりました。

当日は、会長始め多くの役員から参加頂いて二時間程の作業で測道は見違える程綺麗に生まれ変わりました。参加の役員の中からは「この様な催しが本当の自治会活動なのではなからうか」「この輪を地域内に拡げる事を真剣に考えるべきだ」等の声も多く、最初のボランティア活動としては予想以上に好感を持たれた共同作業でした。参加頂いた皆さん大変ご苦勞様でした。私共の姥ヶ山は新潟市でも最も世帯数の多い自治会ですが、

「自分達の地域は自分達の手で」を合言葉に、地域の多くの人達から種々の催しに理解を頂いて積極的に参加して頂き、美しい住み良い、活気に満ちた所だと胸を張って全市に誇れる地域づくりが出来ればと思っております。

今回行われた催しを今後どの様にして地域に拡げ深める事が出来るか二、三意見を述べさせて頂きます。

目的は再三申し上げた「自分達の住む地域は自分達の手で」この言葉に尽きると思っています。

参加の呼び掛けは地域の年齢を問わない、総ての人を対象として、名実共に共同作業として労働の喜びを分かち合い、語り合える機会ともしたい。特に子どもたちと高齢者の方々を積極的に誘って、子どもたちと高齢者との対話の場を提供すると共に、「共生」の問題点を考える機会ともなれば一石二鳥とも思われます。

対象の場所については、地域の方々からの提案を促す事として、特に子どもたちと高齢者の方々の目に映った場所の指摘を受けた。この結果は、環境の美化意識と地域活動の参加意識の高まりが期待出来ると思います。

時期や回数などは、気候の良い、多数の参加者が見込める曜日で、年二回位の自治会年間行事に組み込む事となれば、参加希望者の行動予定などにも載り、会話の端にも「おぼろ、生きた催し」となる事とも思われます。

綺麗にしてある場所に捨ててある当人の良心に訴える方法を主としてはどうでしょうか。

参加された方々が帰宅後は一家団欒の話題にも上がり、美化運動に加わった満足感に浸られた事と思います。

こんな無形の善意が地域全体に拡がる事を願わずにはおられません。

町を綺麗にする人達

一丁目総務部 五十嵐有子

今から二十二年前の平成十一年五月三日、第一回クリーン作戦が行われました。自治会長と役員・班長を中心とした五十名を超える方が集まり、作業が開始されました。

平成十年、姥ヶ山自治会の会長は、堀内久市さんで、副会長は各ブロックの長、五人が選出され、その筆頭副会長が六丁目ブロック長の高橋明夫さんでした。

「子どもたちを頼むよ」

高橋さんは、子どもの時の苦い経験から、子どもたちに色々な経験と地域の大人との関わりで愛情を感じて貰えればとの思いで、新年度には、入学する子どもにも図書券と紅白のお餅を渡して祝ったり、餅つき大会、梨狩りなど子どもたちと大人、高齢者の方との交流を深める行事を行いました。これらの行事や町内の資金を作る為、資源ゴミを多く集める仕組みを作り成果を上げました。

方針を決めたら、脇目も降らず真っ直ぐやる。身近な事から手を付けて、全員が打ち込める事をやる。この揺るぎない思いから、クリーン作戦が始まりました。

現在、役員歴二十年、自治会最長のベテラン高嶋環境部長を先頭にクリーン作戦は引き継がれています。

高橋さんは、家の前で通学する桜が丘小学校の児童に挨拶をします。

子どもたちから返ってくる「おはようございます。」の元気な挨拶に元気を貰うそうです。

行事で子どもたちの輝く笑顔を見られた喜び。その大切な思いを守り、繋げなければならないと思いました。

「中途半端な事だったらしない」

元自治会長の田中保夫さんがゴミ拾いを始めたきっかけは、退院して弱った足腰のリハビリと体力回復の為に近所を歩いていたら、ゴミが捨てられているのを見て、汚かったから拾った事から始まります。

ゴミは、見えない所に捨てられる。ゴミが捨てられている所は、連鎖反応でどんどんゴミが溜まって行き、荒れた所は治安が悪くなって行きます。

弁当の食べ残しが入ったまま捨てられている物や灰皿のタバコの吸い殻を全部捨てた物。そんなゴミの苦勞も有りますが、今こそ環境問題への関心が高まり、ゴミ拾いをする人達が増えましたが、二十年前から一人でゴミ拾いをしていて田中さんを白い目で見える人や、拾っている目の前でゴミを捨てられる事もあったそうです。

二十年以上、雨と雪の日以外は早朝からゴミを分別して拾う為のゴミ袋を持って出掛ける。ゴミ袋がいっぱいになったら帰り、拾った空き缶は潰して、新しい姥ヶ山自治会館建設の為の資金として活用しました。

ゴミ拾いをした日は、手帳に〇を付け、増えていく〇を見て、やる気と継続する強い意志を育てて行ったと思います。

田中さんのそんな姿は、皆の誇りであり、影響を与えています。

「感謝したのに」

感謝されてしまった

一年前、緊急事態宣言が出た時にテレビや新聞で、ライフラインを守る為に、ゴミを収集して頂いている方への感謝の気持ちでゴミ袋に貼ってエールを送っている事を知り、良い事だと思い家族で手紙を書きました。

すると、ゴミステーションにお礼の手紙が貼られていました。

「こんなにちは。この度は、心温まるメッセージを下さり、誠にありがとうございます。」

私どもにまで目を向けてくださり、大変に嬉しく感謝の気持ちでいっぱいです。

頂戴したメッセージは弊社の掲示板に貼らせて頂き、社員一同の励みと致しております。

ありがとうございます。

新和清掃株式会社 社員一同

驚きと嬉しい気持ちには、今も忘れません。人に対する思いやりの気持ちの大切さを学ばせて頂きました。

「思いや行動は人を動かす」

当たり前に綺麗な私達の町は、沢山の人の手によって安心して暮らす事が出来ています。

今回取材させて頂いた皆さんは、「地域にお世話になったから、恩返ししたい。」との思いで、自分なら何が出来るかを考え、出来る事から始めたと言う事です。自分の考えを皆に話す事も、行動を起こす事も勇気のいる事です。相手が喜んでくれるか？思いやりがあるか？その思いは伝わり、沢山の人が、「自分の出来る事」に向かっていきます。

最後に、長い間姥ヶ山地域を中心にゴミ拾いや清掃をして下さっていた、松田隆治さんが逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



高橋さん、田中さん、高嶋さん